

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	80人	算数	80人	理科	80人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	93人	算数	93人	理科	93人
------	----	-----	----	-----	----	-----

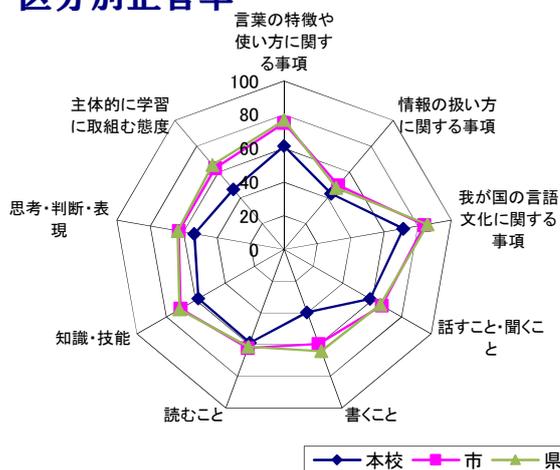
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	61.4	75.1	76.7
	情報の扱いに関する事項	43.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	71.4	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	58.4	66.5	65.5
	書くこと	39.6	59.6	64.2
	読むこと	58.9	62.2	61.5
観点	知識・技能	58.3	70.2	71.1
	思考・判断・表現	53.6	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	46.5	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

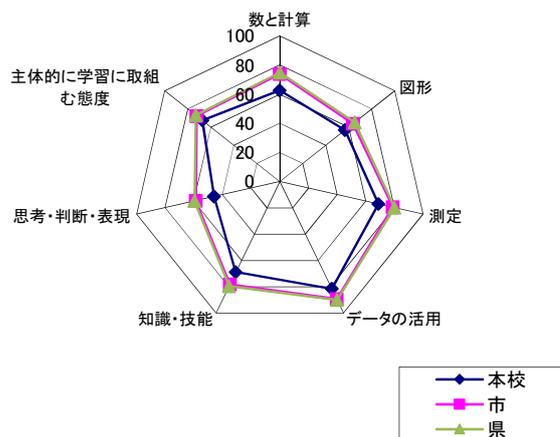
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	市や県の平均正答率より、下回っている。 ●漢字の読み・書きともに県の平均を下回っている。 ●主語と述語の関係についての問題では、県の平均より12ポイント下回っている。	・漢字の読み書きについては、文を書くときに既習漢字を使って書くように指導するとともに、今後も朝の学習やドリル、ミニテスト等で定着が図れるようにする。 ・「主語・述語」を意識した読解と作文を授業に取り入れるようにする。
情報の扱いに関する事項	市や県の平均正答率より、下回っている。 ○国語辞典の使い方についての問題では、県の平均と同程度であった。 ●情報と情報の関係について理解し、話し手が伝えたいことを中心をとらえる問題では、県の平均より8.3ポイント下回っている。	・今後も重要語句を辞書で調べる活動を継続し、国語辞典をより早く正確に引けるようにする。 ・話し合い活動で、話し手の考えや理由などに注意して聞き、メモを取らせるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	市や県の平均正答率より、下回っている。 ●漢字のへんやつくりについての問題では、県の平均より14.5ポイント下回っている。	・新出漢字を学習する際に、部首についても確認する。 ・教科書やドリルなどを用いて、同じ「へん」や「つくり」がついている漢字を集めるなど、楽しく覚えられる活動を取り入れる。
話すこと・聞くこと	市や県の平均正答率より、下回っている。 ○話の中心を明確にするための話し方の工夫をとらえる問題では、県の平均と同程度である。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、県の平均より10.5ポイント下回っている。	・話し合いをする際に、話し手が伝えたいことは何かを意識して聞くようにし、お互いの考えの共通点や相違点を整理しながら自分の考えをまとめさせる。 ・授業の中で、グループでの話し合いの場を適切に設定する。基本的な話型を常時掲示し、司会を中心に話題を確認しながら話し合いを進めさせる。
書くこと	市や県の平均正答率より、下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことについては、県の平均より26.6ポイント下回っている。 ●自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことについては、県の平均より24.6ポイント下回っている。	・教科書等の文章や模範となる書き方の例を参考にさせ、形式的な文章表現の仕方の習熟を図る。 ・他教科の学習でも書く活動を取り入れることで、いろいろな状況に応じた書き方ができるように指導をする。
読むこと	市や県の平均正答率より、下回っている。 ○物語文の内容を読み取る問題では、県の平均と同程度である。 ●説明文で、叙述をもとに段落の内容をとらえる問題では、県の平均より5.2ポイント下回っている。	・問題の意図に沿った解答ができるように、様々な問題に触れる機会を増やす。 ・物語文を読むときには、登場人物の心情がどこでどのように変化していくのかという視点で、登場人物の気持ちが表れている語や文を見付けるなど、要点や細かい点に注意しながら読む習慣をつけさせる。 ・説明文では、段落ごとにキーワードを見つけ、小見出しをつけて内容をまとめる活動を取り入れる。

宇都宮市立新田小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.6	73.8	74.8
	図形	56.8	63.7	65.3
	測定	68.9	78.9	80.1
	データの活用	81.6	89.3	90.0
観点	知識・技能	68.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	45.9	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	67.4	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

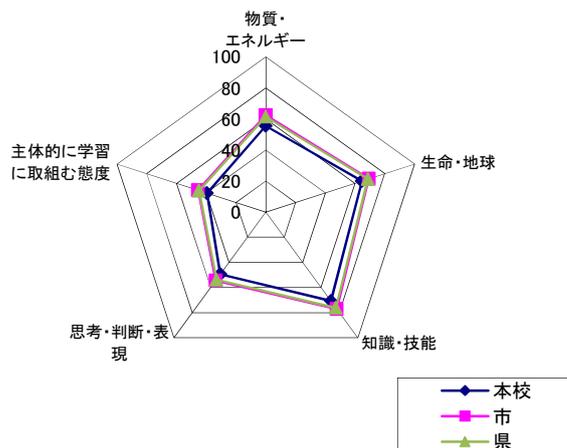
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>市や県の平均正答率より10ポイント以上下回っている。</p> <p>○分数のたし算の計算では校内正答率が90.8%であった。</p> <p>●小数の相対的な大きさの理解については16～17ポイント、分数の数直線上での表し方の理解については11～12ポイント、市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>●たし算、ひき算、かけ算、わり算のどの問題においても誤答が目立ち、中でも波及的繰り下がりのあるひき算の問題では13ポイント、整数ー小数第一位の問題では22～23ポイント、市や県の平均正答率を下回っている。</p>	<p>・大きな数や小数、分数などの数の構成について、既習事項を基にした説明をさせる授業を取り入れ、難しくても自分で考える習慣をつけさせる。</p> <p>・繰り上がりが3回あるたし算、一の位の計算をするときに波及的繰り下がりがあるひき算、2桁×2桁のかけ算、あまりのないわり算、あまりのあるわり算等、計算の基礎問題を繰り返し練習させ、定着を図る。</p> <p>・学習内容の定着を図るため、授業の始めや終わりに問題演習をする。</p>
図形	<p>市や県の平均正答率より下回っている。</p> <p>○二等辺三角形の作図の問題では、校内正答率が84.2%であった。</p> <p>●箱の辺の長さから、中に入っている球の半径を求める問題では、市や県の平均正答率を18～20ポイント下回っている。</p>	<p>・平面の円の性質と立体の球の性質を結び付けて考えられるようにするなど、既習事項を生かして考えられるようにする。</p> <p>・球の模型などを用いて、具体的な場面を提示し、児童が実感をもって捉えられるようにする。</p>
測定	<p>市や県の平均正答率より10ポイント以上下回っている。</p> <p>●地図から道のりを求める問題では、市や県の平均正答率を21～23ポイント下回っている。</p> <p>●はかりの目盛りの読み方については、市や県の平均正答率を10～13ポイント下回っている。</p>	<p>・「道のり」と「距離」の意味の違いをしっかりと理解させるため、日常生活と関連させて考えさせることにより、必要性を持たせ、定着を図るようにしていく。</p> <p>・一人一人が実測する経験ができる場を設けるとともに、いろいろな目盛りのはかりに触れさせ、重さの表し方の多様性に慣れさせる。</p>
データの活用	<p>市や県の平均正答率より下回っている。</p> <p>○棒グラフの1目盛りの大きさを読み取る問題では、校内正答率が84.2%であった。</p> <p>●棒グラフから2番目に多いものを読み取る問題では、市や県の平均正答率を10ポイント下回っている。</p>	<p>・いろいろなグラフを読んだり書いたりする機会を設ける。</p> <p>また、問題文を最後まで読むことを習慣づけ、何が問われているのかをきちんと理解できるようにする。</p> <p>社会科などに関連付け、グラフからどんなことが読み取れるのか考えさせるなど、実生活や学習に生かされているという意識をもって学習させる。</p>

宇都宮市立新田小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.5	62.5	61.5
	生命・地球	64.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	70.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	49.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	39.5	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○「風やゴムのはたらき」で、実験の結果から、ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係を推測できる児童は、県の平均をやや上回っている。</p> <p>●「電気の通り道」では、三つ全ての設問において県の平均正答率を下回り、そのうち二つの設問では10ポイント以上下回っている。</p> <p>●虫眼鏡で集めた光の範囲を小さくすれば明るくなり、温度も高くなることを理解できている児童は、県の平均を10ポイント以上下回っている。</p> <p>●糸電話の音の伝わり方をもとに、糸をつまんだ箇所を指摘できる児童は、県の平均を10ポイント近く下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入段階で3年生の学習と関連付けるようにして、基礎基本の定着につなげる。 ・どのようなことを検証するために実験に取り組むのかを意識させるようにする。 ・課題、予想、実験方法、結果、考察をノートやワークシートに自分の言葉で記述させるようにする。 ・結果を記録する際は、事象をよく見て、スケッチしたり、自分の言葉で説明したりできるようにする。 ・結果を基に考察する際は、科学的な根拠をもって説明できるようにし、科学的な思考や表現力が高まるようにする。 ・学習のまとめとして、日常生活に見られる自然事象を見直す機会を設け、科学が日常生活の中に利用されていることに気付かせることにより、学習意欲を高めていく。
生命・地球	<p>市や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>○ハウセンカの子葉を理解している児童は約9割いて、県の平均を上回っている。</p> <p>○モンシロチョウの幼虫を理解している児童は約9割いて、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>●温度の変わり方を比較する方法を考えることができる児童は、県の平均を10ポイント以上下回っている。</p> <p>●体の特徴から、昆虫か昆虫でないかを判断できる児童は、県の平均を10ポイント近く下回っている。</p> <p>●記録カードの内容をもとに、共通点や差位点を見いだすことができる児童は、県の平均を6.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入段階で3年生の学習と関連付けるようにして、基礎基本の定着につなげる。 ・生き物を飼育、栽培する際には、事前に目的や観察の視点などを十分に与えることにより、科学的な視点で生き物の成長を捉えることができるようにする。 ・記録するときの観点を明確にしてから、観察カードなどをかかせるようにする。 ・観察が難しい場合は、動画や画像などを併用して、視覚的に確認できるようにする。 ・日常生活の中で、自然や季節と科学的な事象を結び付けて考える機会を増やすことで、科学的な見方や考え方を養っていく。

宇都宮市立新田小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●家庭学習についての設問において、「家で、自分で計画を立てて勉強している」で「はい」「どちらかといえば、はい」とした肯定的回答率は62.4%で、県や市を5ポイント以上下回っている。「家で、学校の宿題をしている」での肯定的回答率は94.8%で、県や市とほぼ同じであるが、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」での肯定的回答率は52%で、県や市を8%以上下回っている。家庭学習に関しては、土日を含めた課題の出し方、内容、量を工夫したり、自主学習の仕方を継続的に支援・指導したりして、学習に対する達成感や充実感を味わえるようにしたい。

○「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」での肯定的回答率は83.2%で、県や市よりやや低い程度であり、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つ」での肯定的回答率は96.1%で県や市を上回っている。学びに向かう姿勢や学習の大切さについては理解していると考えられる。

○「授業の内容は分かりますか」「将来のために大切だと思いますか」という設問に対しては、どの教科もおおよそ80%～90%の児童が肯定的回答をしている。「学習は好きだ」と肯定的回答をしている児童の割合は、どの教科においてもおおよそ60%～80%である。過半数児童が学習に関して将来のために大切だと考え、意欲的に取り組んでいると考えられる。

●辞書を活用したり、インターネット・地図帳を活用したり、普段の生活に学んだことを生かしたりすることに関しては、30%～40%が否定的な回答で、県や市より高い割合を示している。今後、さらに、一人一人に目を向け、特にマイナスな感情をもちやすい児童や、学習に根気よく取り組むことが難しい児童に対して、課題を達成した成就感や学ぶことの喜びが経験できるように、学習の「めあて」、学習の進め方、自分の学びについて振り返ること等、きめ細やかな支援や指導を工夫していきたい。また、調べ学習や自主学習などにおいて、図書室やパソコンなどを利用し、多量の情報から必要なものを抜粋できるように学び方を学ばせる指導をしていく必要がある。

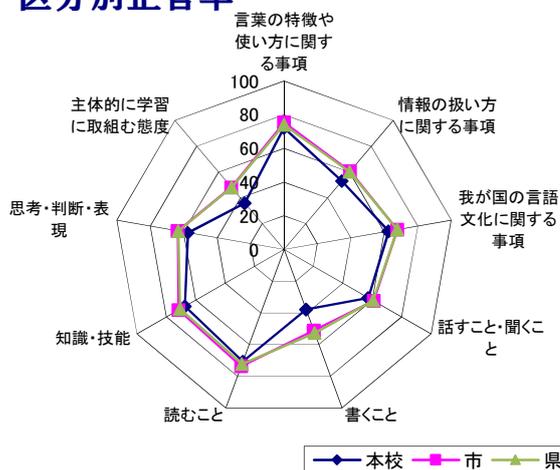
○「学校の決まりを守っている」の肯定的回答率は92.2%、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」の肯定的回答率は87%と高く、「自分はクラスの人役に立っていると思う」の肯定的回答率は65%ではあるものの、県や市を上回っていて、前向きな姿勢で学校生活を送っていることが分かる。

●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答率は80.5%で、県や市を下回っている。今後、総合的な学習の時間等で、自分の将来のことを考える機会を作っていくきたい。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.2	75.4	74.1
	情報の扱いに関する事項	53.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	62.6	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	57.4	61.0	60.7
	書くこと	37.9	51.2	52.8
	読むこと	70.7	73.7	72.4
観点	知識・技能	67.4	71.7	70.6
	思考・判断・表現	57.5	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	36.0	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

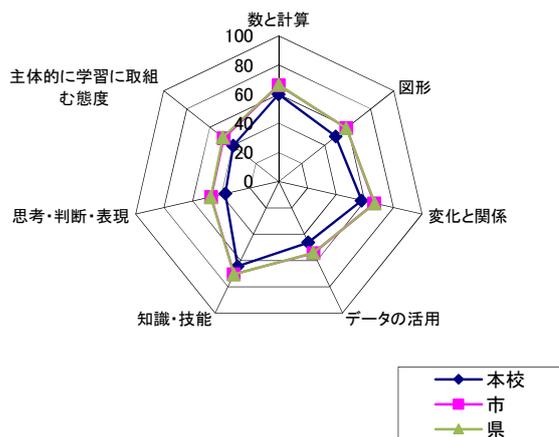
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	市、県の平均正答率を下回っている。 ○漢字の読み書きの平均正答率は、県と同程度である。 ●漢字の熟語を書くことは、県の平均正答率を大きく下回っている。	・漢字の練習や確認テストを継続して実施し、習熟を図る。 ・漢字を組み合わせた熟語や同じ漢字でも読み方の異なる問題に取り組みせたり、分からない漢字を国語辞典や一人一台端末を活用して調べさせたりすることで、語彙を増やす。
情報の扱いに関する事項	市、県の平均正答率を下回っている。 ○本校と県との平均正答率の差は、昨年度は9.7ポイントであったが、今年度は6.4ポイントと小さくなっている。 ●情報と情報の関係について理解して、言葉や文で解答する問題の平均正答率が県より大きく下回っている。	・問題文の意図を理解し、必要な情報やキーワードを見つけることができるよう、短い文章を要約する練習を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	市、県の平均正答率を下回っている。 ●ことわざの意味や使い方を問う問題では、県の平均正答率よりも5.2ポイント低い。	・ことわざや慣用語について、教師が意図的に使用し、聞いて馴染むようにする。 ・ことわざを使用した短文や正しい使い方の選択問題に取り組みせ、知識の定着を図る。
話すこと・聞くこと	市、県の平均正答率を下回っている。 ○話し合いの内容を聞き取る問題では、話し手の伝えたいことを聞き取るものの平均正答率は、県よりも高い。 ●聞き取ったことから役割を記述する問題では、県よりも2.5ポイント低い。	・話し手の伝えたいことを考えながら聞くことは、継続して指導する。 ・メモの取り方などを工夫したり、共通点や相違点に注目して聞いたりするなど、より詳しく聞き取るための方法を指導し、国語以外の学習でも活用できるようにする。
書くこと	市、県の平均正答率を下回っている。 ●指定された行数や段落で書く問題の平均正答率が県よりも約14ポイント低い。 ●内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く問題では、県の平均正答率よりも18.4ポイント低い。	・必要なことをまとめて書く力を高めるために、行数や段落などの条件を付けて文章を書く活動を取り入れる。 ・解答した児童については約5割が正答であるが、無回答の児童が目立つ。書くことに慣れるために、類似課題を繰り返し行う。
読むこと	市、県の平均正答率を下回っている。 ○叙述を基に文章の内容や登場人物の気持ちを捉える問題では、県の平均正答率よりもやや高い。 ●中心となる語や文を見つける問題では、県の平均正答率よりも6ポイント低い。	・読書指導や新聞記事の要約などの課題に取り組みせるなどの指導を継続する。 ・キーワードになる語や文に線を引くなど、言葉を意識して読むよう指導する。説明文では、文の構成や段落ごとの役割を考えながら読むよう指導する。

宇都宮市立新田小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.0	66.1	66.4
	図形	49.6	58.9	58.8
	変化と関係	57.8	66.6	67.0
	データの活用	46.2	54.4	54.2
観点	知識・技能	64.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	37.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	39.7	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

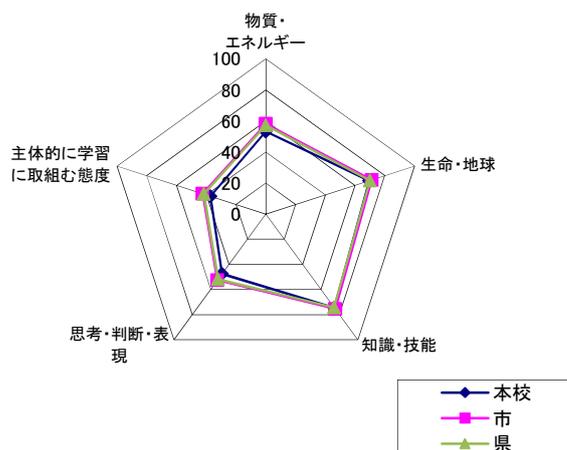
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>県の平均正答率よりも6.4ポイント下回っている。</p> <p>○「分数」の設問では、ほぼ分数の仕組みを理解しており、校内正答率が92.3%であった。</p> <p>●「億と兆・がい数の表し方」の設問では、命数法で書かれた数を記数法で表すことの理解が不十分であった。県の平均正答率よりも13.4ポイント下回っている。</p> <p>●「わり算・計算のきまり」の設問では、四則計算における計算の順序の理解が不十分であった。県の平均正答率よりも12.1ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎的な計算力は身に付いているが、まだまだ十分でないと考えられる。引き続き基本的な四則演算を繰り返し練習し定着を図る。</p> <p>・命数法で書かれた数を記数法で表す問題では、日常的に記数法を多く用いることで記数法の意味理解を深め定着を図る。</p>
図形	<p>県の平均正答率よりも9.2ポイント下回っている。</p> <p>○「いろいろな形」の設問では、コンパスとものさしを用いて、平行四辺形の作図をすることができた。</p> <p>●「面積」の問題では、面積の単位の関係の理解が不十分であった。県の平均正答率よりも12.1ポイント下回っている。</p> <p>●「角の大きさ」の設問では、角の大きさの求め方の理解が不十分であった。県の平均正答率よりも14.3ポイント下回っている。</p>	<p>・面積の問題では、簡単な面積を求める演算を繰り返し練習すると同時に単位の関係についての演習も繰り返し行うことで面積に関する基礎的な知識の理解を深め定着を図る。</p> <p>・角の大きさを求める問題では、三角定規や分度器等を用いて図形を調べる活動を多く設定し角の大きさに対する理解を深めると同時に、角の大きさを計算で求める演習を繰り返し行うことで定着を図る。</p>
変化と関係	<p>県の平均正答率よりも9.2ポイント下回っている。</p> <p>○「変わり方調べ」の設問では、伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求めることができ、校内正答率は86.8%であった。</p> <p>●「簡単な場合についての割合」の設問では、2つの数量の関係の理解が不十分であった。県の平均正答率よりも16.1ポイント下回っている。</p> <p>●「変わり方調べ」の設問では、伴って変わる2つの量の数量の関係を式に表すことができなかった。県の平均正答率よりも、20.9ポイント下回っている。</p>	<p>・伴って変わる2つの量の関係について表に整理することで、規則性についての理解を深めさせると同時に、その関係を立式できるように繰り返し演算を行うことで定着を図る。</p> <p>・数量の関係の問題では、何が基準量で何が比較量なのかを的確に捉えられるようにするために問題文から基準となる部分を読み取る演習を多く設定することで定着を図る。</p>
データの活用	<p>県の平均正答率よりも8ポイント下回っている。</p> <p>○「折れ線グラフと表」の設問では、2つの折れ線グラフから必要なことを読み取り回答することができた。</p> <p>●「折れ線グラフと表」の設問では、折れ線グラフから変わり方と読み取ることができなかった。県の平均正答率よりも12.6ポイント下回っている。</p>	<p>・学級や学校でのアンケート結果などをグラフや表に表し、読み取り説明したり活用したりする活動を通して、生活に生かすことができるものであることを捉えさせる。</p> <p>・二次元表の見方や仕組みについて、実際に二次元表を作る活動を通してその知識の定着を図る。</p>

宇都宮市立新田小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.2	58.1	57.2
	生命・地球	69.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	74.7	75.5	74.4
	思考・判断・表現	47.6	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	37.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>物質・エネルギー領域においては、市よりも低いものの、ほぼ同程度である。</p> <p>○「気温を測る条件」をたずねる設問では、正答率が市の平均よりも11.1ポイント上回っている。</p> <p>●ものの体積と力の「閉じ込められた空気の性質の利用を説明する」設問では、市の正答率よりも14.2ポイント下回った。</p> <p>●ものの体積と温度の「温度による体積の変化を利用したものを指摘する」設問では、市の正答率を10.2ポイント下回った。</p>	<p>・既習事項や日常生活で目にしたり触ったりしたものを結びつけて考えられるように、実際の映像や画像を見せるなど導入や終末の工夫を心掛ける。</p> <p>・温度の変化によって体積が変化することや閉じ込められた空気がどのような性質をもつか身近な出来事と関連付けながら学習を進め、理解を深められるようにする。</p>
生命・地球	<p>生命・地球領域においては、市との差が1.4ポイントとほぼ同程度となっている。</p> <p>○電気の働きの「乾電池を2個つなげて、より早く走る回路を作図する」設問では、市の正答率より7.4ポイント上回った。</p> <p>○月と星の「方位磁針の使い方」を問う設問では、市の正答率を11.3ポイント上回った。</p> <p>●雨水のゆくえと地面のようすの「実験結果をもとに、土の粒の大きさと水のしみこみやすさ」をたずねる設問では、市の正答率を9.2ポイント下回った。</p>	<p>・実験の結果をまとめる際には、児童同士が情報を互いに交換したり、考察について話し合ったりする活動を入れることで、思考力を高められるようにする。</p> <p>・学習したことを自分の言葉でまとめたり、既習の用語を用いて考察を表現したりする活動を通して、表現力を高められるようにする。</p>

宇都宮市立新田小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について肯定的回答が97.8%、また、「宿題の量はちょうどよい」と回答した児童は市や県とほぼおなじであり、89%の児童が「自分のためになっている」と考えており、学校から出された課題に対し、真面目に取り組もうとしている姿勢が伺える。

○「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答が81.3%、「疑問や不思議に思うことは分かるまで調べたい」の肯定的回答が64.1%で、県とほぼ同じ結果であった。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」では、90.1%の児童が肯定的回答をしていた。学ぶことの楽しさや必要性については感じていることが分かる。

●「学校の授業の予習・復習をしている」「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」については、肯定的割合が県や市を大きく下回り、「いいえ」と答えた児童がそれぞれ約3割いた。また、家庭学習をする時間については、平日は「30分以上1時間以内」と回答した児童の割合が最も多く35.2%、休日は「1時間より少ない」が最も多く、48.4%であった。市や県で見ると、1時間以上2時間以内との回答が最も多いことから、本校の学習時間が平均よりも短いことがわかる。自主学習や授業の予習・復習の仕方の具体例を示したり、児童のやる気を引き出す課題を出すなど、工夫して指導する。また、家庭との連携を図り、学力向上につなげていく。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答は83.5%であるが、「むずかしい問題にであうとよりやる気が出る」の肯定的回答は34.1%と低くなっている。出来る問題で自信をもてるようにすることも継続しつつ、少しずつ難易度を上げた課題にも取り組ませ、学習への意欲を高めていきたい。一人一台端末を使った課題作成に取り組んだり、AIドリルの活用をしたりすることで、個に応じた支援の充実を図る。

●平日のテレビや動画等を視聴する時間についての設問では、「2時間以上3時間より少ない」と「4時間以上」がどちらも26.4%で、市や県の最も高い「1時間以上、2時間より少ない」よりも長い時間を費やしていることがわかる。ゲームや電話、メールをすることに費やす時間も同様の結果であった。メディアとの関わり方や問題点について、学級活動、保健体育、家庭科等での指導に力を入れ、家庭への啓発を継続して行うようにする。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」の肯定的回答は90.1%、「将来のゆめや目標をもっている」は87.9%である。一人一人のよさを伸ばし、やりとげた喜びを味わうことで、次のステップに意欲的に取り組めるよう励ましていく。

宇都宮市立新田小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	児童が目的意識をもち、進んで課題解決に向かい、対話により思考力を深めていけるような発問や授業展開の工夫	「授業の中で目標が示されている」の肯定的回答は4・5年生とも8割を超えているが、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」では、4年よりも5年の肯定的回答の割合が高い。
読解力・表現力の育成	話し合い活動の場の設定や思考を整理し、過程を振り返ることのできるノート指導	「ノートに学習の目標、まとめを書いている」の肯定的回答が、4年生では8割、5年生では9割である。話し合いでは、「友達の話を聞くこと」は9割が肯定的であるが、「自分の意見を発表することが得意」の問いには4年よりも5年の肯定的回答が下回っている。
家庭学習の習慣化	学力向上を図るための、宿題や自主学習ノートの点検の仕方の工夫と、発達段階に応じた家庭学習の在り方の啓発	4・5年生とも「学校の宿題をしている」と肯定的回答をした児童の割合は9割以上だが、「自分で計画を立てて勉強している」と肯定的回答をした児童の割合が6割程度である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・3教科とも全体的に低い傾向にある。	・復習による知識・技能の定着と個に応じた指導	・基礎的な知識・技能の定着を図るため、個に応じてスモールステップで、何度も学び直しができるようにしていく。
・4・5年ともに、知識・技能を「活用」する問題や、いくつかの条件を満たした文章を書く「記述」の問題に課題が見られる。	・文章や問題文の意図を適切に読み取る読解力の育成と作文技能の向上	・「まとめ」や「振り返り」を書く際に、本時で習った言葉を必ず入れるなどの条件を提示し、簡潔な短文でまとめるなど、書くことに慣れるようにする。